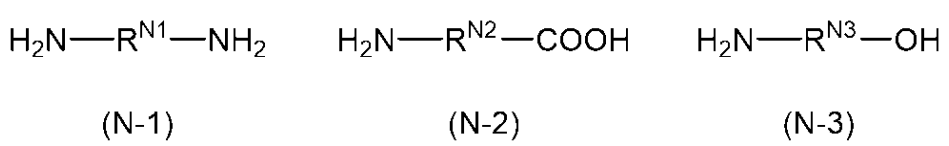
【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】令和7年7月1日(2025.7.1)

【国際公開番号】WO2025/023033
【出願番号】特願2025-518986(P2025-518986)
【国際特許分類】
C08G 69/44(2006.01)
C08L 67/00(2006.01)
C08L 77/12(2006.01)
C08L101/16(2006.01)
【FI】
C08G 69/44 ZBP
C08L 67/00
C08L 77/12
C08L101/16

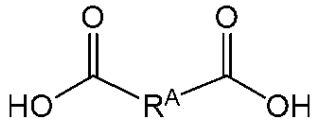
【手続補正書】
【提出日】令和7年4月1日(2025.4.1)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
脂肪族ジカルボン酸および芳香族ジカルボン酸からなる群から選択される１種以上のカルボニル化合物と、脂肪族ジオールとを反応成分とするポリエステルに、脂肪族ジアミン、脂肪族アミノカルボン酸、芳香族アミノカルボン酸および脂肪族アミノアルコールからなる群から選択される１種以上のアミン化合物を反応させたポリエステル；又は、脂肪族アミノアルコールであるアミン化合物と、脂肪族ジカルボン酸および芳香族ジカルボン酸からなる群から選択される１種以上のカルボニル化合物と、脂肪族ジオールとを反応成分とするポリエステルである生分解性樹脂分解促進剤であって、
前記ポリエステルの数平均分子量が３００～５，０００の範囲にある生分解性樹脂分解促進剤。
【請求項２】
前記脂肪族ジアミンが下記一般式（Ｎ－１）で表される化合物であり、前記脂肪族アミノカルボン酸および前記芳香族アミノカルボン酸が下記一般式（Ｎ－２）で表される化合物であり、前記脂肪族アミノアルコール下記一般式（Ｎ－３）で表される化合物である請求項１に記載の生分解性樹脂分解促進剤。
【化１】



(N-1) (N-2) (N-3)

（前記一般式（Ｎ－１）、一般式（Ｎ－２）および一般式（Ｎ－３）において
R^{N1}は、炭素原子数１～１２のアルキレン基又は炭素原子数１～１２のヘテロアルキレン基であり、
R^{N2}は、炭素原子数１～１２のアルキレン基、炭素原子数１～１２のヘテロアルキレ

ン基、炭素原子数５～１５のアリール基又は炭素原子数５～１５のヘテロアリール基であり、
　R^{N3}は、炭素原子数１～１２のアルキレン基で又は炭素原子数１～１２のヘテロアルキレン基ある。）
【請求項３】
　前記カルボニル化合物が、下記一般式（Ａ）で表される化合物である請求項１又は２に記載の生分解性樹脂分解促進剤。
【化２】



(A)

（前記一般式（Ａ）において
　R^{A}は、単結合、炭素原子数１～１２のアルキレン基、炭素原子数１～１２のヘテロアルキレン基、炭素原子数５～１５のアリール基又は炭素原子数５～１５のヘテロアリール基である。）
【請求項４】
　前記反応成分における前記アミン化合物の割合が１０～３５質量％の範囲である請求項１又は２に記載の生分解性樹脂分解促進剤。
【請求項５】
　前記ポリエステルが、前記脂肪族ジカルボン酸と、前記脂肪族ジオールとを反応成分とするポリエステルに、脂肪族ジアミン、脂肪族アミノカルボン酸、芳香族アミノカルボン酸および脂肪族アミノアルコールからなる群から選択される１種以上のアミン化合物を反応させたポリエステルである請求項１又は２に記載の生分解性樹脂分解促進剤。
【請求項６】
　生分解性樹脂と、請求項１又は２に記載の生分解性樹脂分解促進剤とを含有する生分解性樹脂組成物。
【請求項７】
　前記生分解性樹脂が、ポリ乳酸、ポリブチレンサクシネート、ポリブチレンアジペートテレフタレート、ポリヒドロキシアルカン酸、ポリブチレンサクシネートアジペート及びポリエチレンテレフタレートサクシネートからなる群から選択される１種以上である請求項６に記載の生分解性樹脂組成物。
【請求項８】
　前記生分解性樹脂１００質量部に対して前記生分解性樹脂分解促進剤を１～２５０質量部の範囲で含有する請求項６に記載の生分解性樹脂組成物。
【請求項９】
　請求項６に記載の生分解性樹脂組成物の成形体。
【請求項１０】
　生分解性樹脂に請求項１又は２に記載の生分解性樹脂分解促進剤を添加する生分解性樹脂の分解方法。